

平成 28 年 3 月 1 日発行
No.298



発行元：社会福祉法人 拓く
TEL 0942-27-2039
FAX 0942-27-2086
<http://h-polepole.com>

グループホーム

ぐるーぷほーむごしゃかいじっし グループホーム保護者会を実施しています

「あたりまえに地域で暮らしたい」にこだわり、各地を見学したりお話を聞いたりして、試行錯誤しながら運営してきた拓くのグループホーム。障害者総合支援法の3年後の見直しで、今後は、グループホーム内でのヘルパーを使えなくなるかもしれないなど、大きな変化が予想されます。又、これまでの実践を踏まえた課題も見えてきました。

そこで、1月より各グループホームごとに保護者会を実施しています。これは、グループホームに関わる皆さんが、当法人のグループホームの運営状況やグループホームを取り巻く制度の流れとその影響などの「現状の共有」をすることと、それぞれの家庭状況などを話す機会にもなっています。時代の変化に即したグループホームの暮らしのあり方を抜本的に見直す「グループホームの再構築」を行うために、今後もまたグループホームの保護者会をし、一緒に考えていく機会を持ちたいと思います。ぜひご参加ください。
(担当 野瀬 美紀)

相談支援

信頼と安心が良いコミュニケーションを育て、介助や支援を助ける

久留米市には現在26の相談支援事業所があり、相談支援事業所連絡会(通称「くるめ相談ネット」)を定期的に開催し、相談支援専門員の資質の向上と地域課題の発掘や相談支援体制の連携強化に努めています。また、障害児・者の地域支援に関わる方々と連携強化を図る取組の一環とし、障害者相談ネットワーク連絡会を開催しています。

今回は、福岡市心身障がい福祉センターの宮崎千秋先生と、ゆうゆうセンターの橋本文先生を講師に招き、強度行動障害のある方の特性や支援の仕方等を学びました。

講演では、「支援者が困っている時、当事者はもっと困っている。当事者の行動には必ず意味ときっかけがある。困った行動を減らすには？困ったことが起こった時にはどうするのか？」等、改めて構造化の必要性を実感しました。構造化とは、わかりやすくすること、見通しをつきやすくすること。そうすることで余計な不安が減るのです。また、信頼と安心が良いコミュニケーションを育て、介助や支援を助けるとのことでした。今回の連絡会では、福祉事業所や保育園、学校等、色んな機関の方と顔の見える関係ができて、次のステップへの展開の可能性を感じた次第です。(相談支援センター カリブ 大カ 陽子)



チェムチェム
コーディネーター

大雪の日、皆さんの適応力に関心、安心!

チェムチェムのコーディネーターになって1年。振り返ると、入居されているみなさんが思っていた以上に色々な力を持っておられることに驚き、発見した1年でした。最近では、大雪で水道管が凍結して断水状態が続いた日のこと。1日目、備蓄



していた水を使ってお湯は沸かせましたが、お風呂は使えませんでした。幸い外の水道が使えたので、水を汲んで沸かして身体を拭くことができました。2日目、2階の水道は使えるようになりましたが、1階は相変わらず。みなさんにお風呂が使えない話をする、ある方は洗面器3杯分のお湯で身体を洗い、ある方は2階の洗面台に栓をし、そこにお湯をためて髪を洗い、身体を拭かれました。こちらから何も言っていないのに、ご自身で考え、行動される姿に驚き、みなさんそれぞれの生活力を発見することができました。

こちらの決めつけや思い込みが、ご本人の力を引き出せずにいるのではないかと改めて考える機会になりましたし、みなさんならば色々なことが起きても、持っている力を発揮されるのではと思えるようになりました。
(チェムチェム コーディネーター 白敷 直基)